

第3回「論語三代」趣意書

社会福祉法人 福生会
理事長 谷口 宗弘

「性、相近し 習、相遠し。」はじめ、字は読めず意味も解らない保育園児でさえ、章句の素読を繰り返す内に自然と漢字や言葉の意味を理解するようになります。そして幼児期に沁み付いた孔子の哲学は、後のその子の自我形成や習慣の修得に大きく影響し、自律した自我と良い習慣の修得は人生を変える大きな力となる筈です。

賀茂保育園が論語に取り組み始めて今年が4年目です。論語三代の開催も今年で3回目になりました。この春、20数名の園児が元気に卒園しました。彼らがこれからの人生、どんな体験をしてどんな生き方をするのか、残念ながら私はそのすべてを見守ることは叶いません。せめて在園中の論語との出会いによって、迷った時も苦しい時も、いつも彼らの傍らに論語が在り、「人生の羅針盤」、「人生の哲学」としてより良い生き方を示し続けて欲しい。そう願ってやみません。

最後に、このたびの開催に際して三朝町を始め個人や団体の心ある皆様から献身的なご助力を頂戴しましたこと、この場を借りてお礼申し上げます。

第3回福生会「論語三代」祝辞

三朝町長
吉田秀光

昨年に引続き、子ども向け論語教育の第一人者である安岡定子先生をお招きし、「論語三代」が開催されますことは、誠に喜ばしく、心よりお祝い申し上げます。論語は、中国の大思想家「孔子」とその高弟の言行・思想を記録した書物であり、人生を豊かにする至極の言葉が多く記されています。

福生会におかれましては、賀茂保育園の指定管理者として本町の子どもたちが心身ともに健全に育ち、豊かな人間性を育んでいくために、多大なご尽力いただいております。中でも「論語の素読」は、賀茂保育園の魅力のひとつとして定着し、子どもたちの心の成長に大きな成果をあげていただいておりますので、今後も引き続き、これらの取組を進めていただきますよう心よりお願い申し上げます。

このたびの「論語三代」が成功し、子どもたちの生きる力の体得、育成につながりますことをご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。